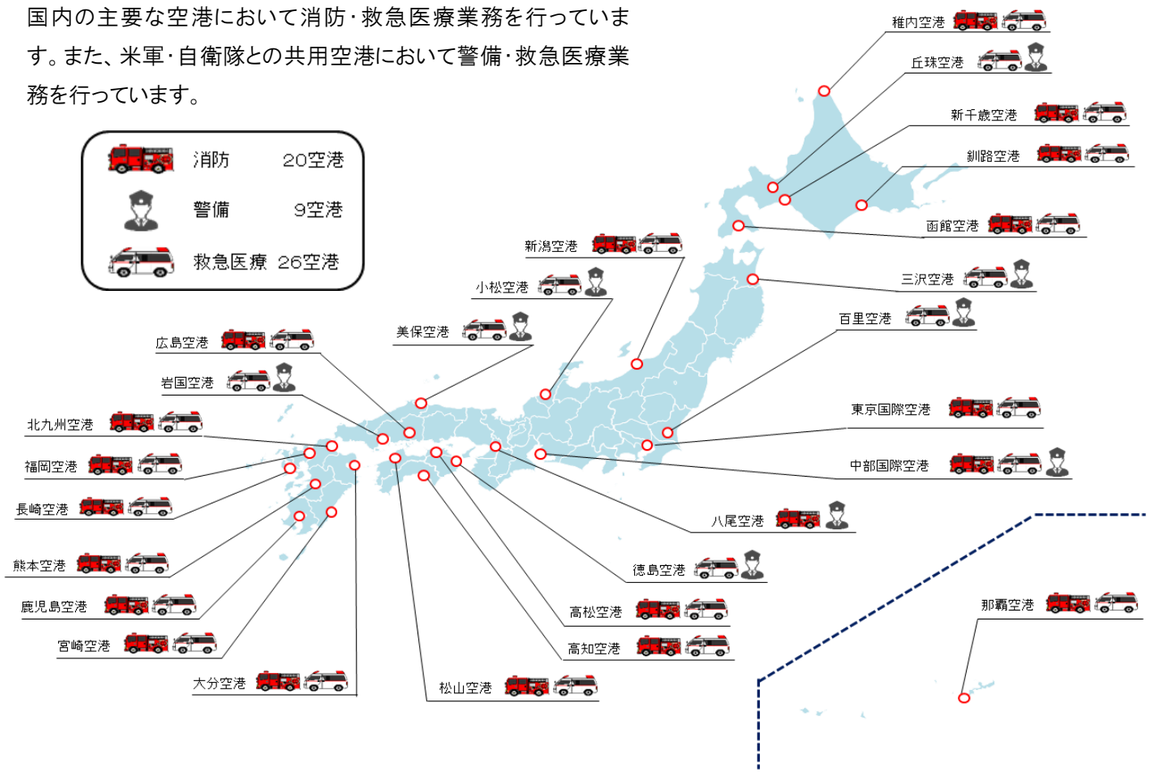
業務実施空港

消防・警務・救急医療実施空港

国内の主要な空港において消防･救急医療業務を行っています。また、米軍･自衛隊との共用空港において警備･救急医療業務を行っています。



職員メッセージ

一人でも多くの命を守る

東京第一事務所　勤務
遠藤　良太

「空港消防と自治体の消防との違いはなんですか。」と聞かれることが多くあります。基本的な消防業務は同じですが、いちばんの違いは対象が航空機であることから、国際標準に基づいた空港消防業務ということです。

「航空機の事故はあまり聞いたことがないから起きないだろう」と思われる方もいるかもしれません。しかし、実際に出動することは年に何度もあり、火災を伴わない航空機トラブルにより緊急着陸した場合も私たちは直ちに現場へ出動します。もしも火災を伴う航空機事故が発生した場合は、大量の燃料を積んだ航空機が一瞬で火に包まれ、多くの乗客や乗員の命が危険にさらされます。そのような万が一の事態が発生した時でも万全な体制で望むために、高い意識を持ち続けることが空港消防ではとても大切なことではないかと思います。

一人でも多くの命を守りたい。我々は、迅速かつ的確に消火活動が行えるよう、常に緊張感を保ちつつ訓練に励み、我が国の世界の玄関口でもある羽田空港は世界一安全な空港だと思っていただけるよう努力していきます。

一般財団法人　**航 空 保 安 協 会**
105-0001　東京都港区虎ノ門 1-16-4
Tel 03-3501-1341

釧路事務所
084-0926　釧路市鶴丘 2 釧路空港内
Tel　0154-57-4681

空港消防

一般財団法人　航空保安協会
AIR SAFETY FOUNDATION

業務紹介

国内の主要な空港及びその周辺において、航空機事故等が発生した場合に、消火と救難を行っています。また、迅速かつ的確な消火救難業務を行うために、機材の点検や訓練を行っています。

万が一事故が起こったら！？

- 航空機事故・火災発生時に、第一報は管制塔等から消防所に通報(クラッシュホン等により)されます。
- 警察・自治体消防・医療機関等へは専用回線により通報します。
- 化学消防車等が出動し、現場到着後ただちに消火救難活動を開始します。
- 現場に到着するまでの時間(レスポンスタイム)は、国際標準で 3 分以内と定められています。

日常業務

日常点検

点検業務

緊急事態に対して常時迅速な出動態勢を維持するため、使用する消防車両・消火救難機材・消防水利施設等の点検整備を実施しています。

日常訓練

座学

各事務所で策定した訓練計画に基づき、空港消火救難業務教本等の教材を使用して、空港消防業務に必要な専門知識を習得します。また、グリッドマップや模型等を使用した図上訓練等を実施しています。

技能

消防車等消火救難機材の点検方法や、救護所(空気膨張式テント)の設営方法を習得ます。頭と体で覚えて、本番でスムーズな設営ができるようにしています。また、礼式や情報伝達訓練等を実施しています。

操法

ホースの延張や中継方法、消防車両等の運転、防火衣の装着法などを習得します。また、タレット(車両上部にある大型放水銃。放水能力 6000ℓ/分)や消火救難機材等の使用法を習得します。

体力維持

体力錬成

特殊防火衣や空気呼吸器といった重い機材を装備しての過酷な消火救難活動に対応できるよう日々体力錬成に励んでいます。

緊急業務

緊急出動

空港及びその周辺において航空機事故が発生した場合、多数の乗客・乗員の命を守るため、直ちに現場に出動して消火救難活動を実施します。

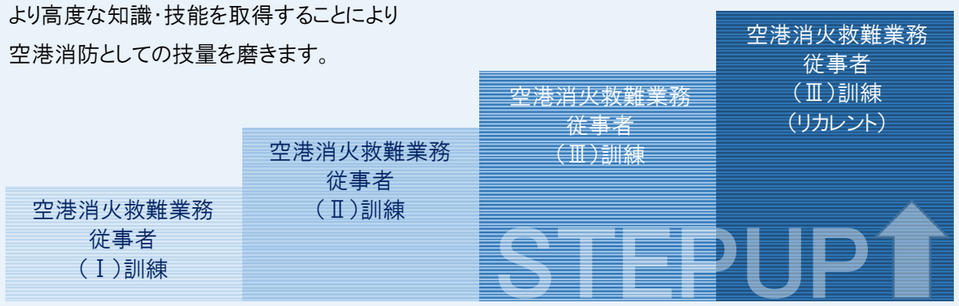
実際の消火救難活動

2007 年 那覇空港の中華航空機爆発炎上事故

2016 年 東京国際空港の大韓航空機エンジントラブル

ステップアップ（研修体制）

職員は日常業務の中で空港消防として必要な専門知識や技能を習得します。
その後、定期的に長崎空港に隣接する国土交通省航空局航空ネットワーク部空港技術課空港保安防災教育訓練センターでの訓練研修に参加します。職員の経験年数及び練度・知識・技能に応じた訓練コースが設けられており、習得するべき技能に応じた訓練コースを受講し、各課程毎に当該技量を取得したことを証明する認定証を取得して上級課程へステップアップしていきます。
より高度な知識・技能を取得することにより
空港消防としての技量を磨きます。



空港消火救難業務従事者の研修

採用約１年

空港消火救難業務従事者（Ⅰ）訓練

日頃の訓練成果を試す！

各空港で学んだ基礎的な専門知識・技能を活かし、B767 型航空機と同寸のモックアップ(模型)等を使用して、実際の航空機事故に近い状況で消防車両の出動や配置、消火救護活動などの訓練を行います。

採用約５年

空港消火救難業務従事者（Ⅱ）訓練

状況把握力・判断力の向上！

空港消火救難業務従事者（Ⅰ）の認定証取得者を対象とした、より専門的内容の訓練を受講します。訓練内容も複雑になることで質の高い状況把握力・判断力を習得します。

採用約６年

空港消火救難業務従事者（Ⅲ）訓練

指揮統制能力・チームワーク力を高める！

現場活動の指揮統制、関係機関との調整、監督者への報告等、これまでの経験・知識をフル活用して緊急出動から現場活動終了までの一連の活動を的確に実施するための訓練です。また、これまでに得た知識・技能を訓練の中で共有、即反応実践することでチームとしての活動能力を習得します。

採用約７年

空港消火救難業務従事者（Ⅲ）訓練（リカレント）

（Ⅲ）訓練を反復研修でスキルアップ！

上記の（Ⅲ）訓練で認定証を取得した職員は、3年以内に繰り返し研修を受けることで、さらなるスキルアップを図ります。

空港保安、空港救急医療業務従事者の研修

１年以上

空港警備業務、救急医療業務が対象の研修

緊急時における電話の対応や指示、無線機を使用しての連絡調整、指示を受けての適切な行動等の警備業務の研修を受講します。また、航空機事故現場におけるトリアージ地区等の設置、医療資器材の配置等、迅速な現場救護所の設置訓練及び心肺蘇生訓練や AED の操作取扱訓練並びに普通救命講習なども受講します。